資料3

第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針へのおもな取組

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構　中央農業総合研究センター
北陸研究センター

農林水産省　農林水産技術会議事務局　技術安全課

平成18年12月

栽培実験の概要

○　実験名

ディフェンシン遺伝子導入イネの複合耐病性評価及び有望系統の選抜（カラシナ由来の抗菌性タンパク質をもつ複合耐病性イネ系統の隔離圃場栽培実験）

○　実験目的

高度複合病害（いもち病や白葉枯病）抵抗性を持つ遺伝子組換えイネ系統の実用的耐病性の評価、今年度は選抜した系統の詳細な評価

○　実験年度及び栽培期間

実験年度：平成１７年度～１８年度　　１８年度の栽培期間：平成１８年７月～１０月

○　栽培作物

いもち病及び白葉枯病抵抗性イネ（DEF，*Oryza sativa* L.）（宿主品種「どんとこい」）
AD41系統（AD4131）及びAD48系統（AD4811）
平成１７年５月２５日第1種使用規程承認取得

○　栽培場所及び面積

新潟県上越市　北陸研究センター　隔離圃場　０．６a

北陸研究センター圃場図及び栽培区画（隔離圃場）

交雑防止措置について

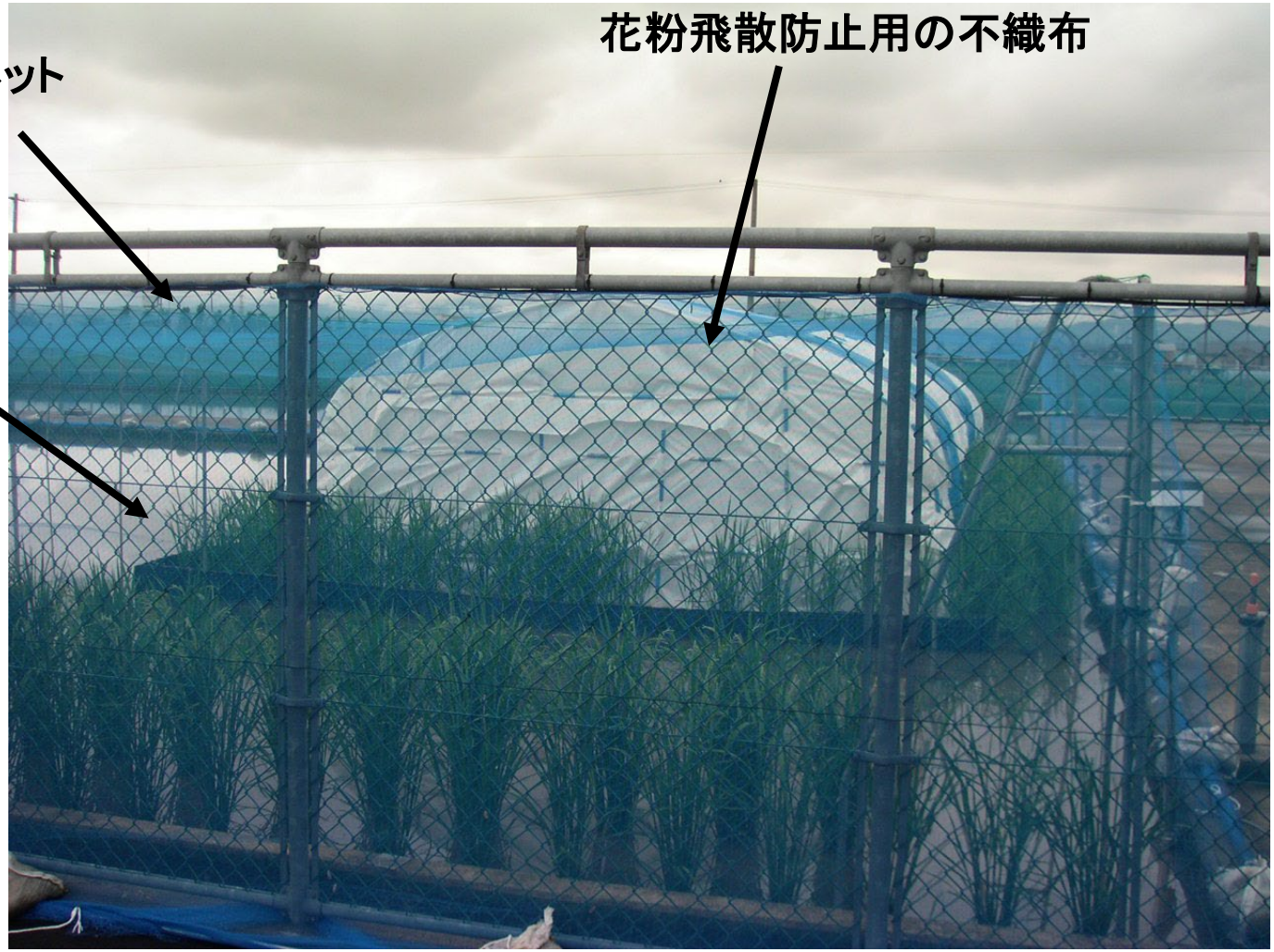
○　第１種使用規程承認組換え作物栽培実験指針に定められた措置

同種栽培作物までの**隔離距離**３０ｍ以上（センター内のイネ約３５ｍ、センター外のイネは約２２０ｍ）。

○　その他の措置

・実験用イネの**移植期**を周囲の一般イネより遅らせ、出穂期**を3週間以上**ずらす。
　実験用組換えイネ出穂期　　１８年９月上旬
　周囲の一般イネ出穂期　　１８年８月上旬

・栽培区画に不織布を設置（18年8月30日）し、花粉の飛散を防止。



モニタリング措置について

○　第１種使用規程承認組換え作物栽培実験指針に定められたモニタリング措置

センター内の境界に指標作物（モチ性イネ）を実験作物と同時期に開花するよう設置し、キセニア現象を利用し交雑を検出。キセニアになった玄米が出現した場合には、遺伝子組換えイネの導入遺伝子の有無を検知できるPCR法で解析。交雑の確認に用いる種子数は１万粒以上。

出穂期
　指標作物（モチ性イネ）「らいちょうもち」:９月10日
　組換えイネ　　:９月　７日

○　その他のモニタリング措置

「新潟県遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例」に基づき、遺伝子組換えイネから57m以内地点にセンター外の周囲のイネと同時期に開花するように指標作物（モチ性イネ）を設置し、キセニア現象を利用して行う。キセニアになった玄米が出現した場合には、遺伝子組換えイネの導入遺伝子の有無を検知できるPCR法で解析。交雑の確認に用いる種子数は１万粒以上。

出穂期
　指標作物（モチ性イネ）「らいちょうもち」:８月　８日
　組換えイネ　　:９月　７日
　センター外の周囲のイネ　　:８月　８日ころ

栽培区画（隔離圃場）及びモニタリング用イネ設置場所

:栽培実験指針モニタリング用イネ設置場所
:栽培実験指針及び新潟県条例モニタリング用イネ設置場所

A. 隔離圃場から約270m西に離れた地点の栽培実験指針モニタリング用イネ

B. 隔離圃場57m以内の新潟県条例モニタリング用イネ

情報提供について

○　栽培実験開始前の情報提供

平成１８年　４月２０日　　近隣説明会開催（新潟県条例に基づく説明会）
平成１８年　６月２０日　　栽培実験計画書公表
平成１８年　６月２２日　　説明会開催
平成１８年　７月２１日　　田植え作業を見学者・マスコミ等に公開

○　栽培実験の経過等に関する情報提供

平成１８年　８月１０日　　栽培実験の経過についてホームページ掲載開始
　平成１８年１２月４日現在　１１月１日更新まで１５件掲載
平成１８年　９月　６日　　センターの一般公開日において、本実験について説明
平成１８年　９月２７日　　新潟県条例に基づく交雑に関するモニタリングの結果、交雑がなかったことをプレスリリースにて公表
平成１８年１０月２４日　　稲刈り作業を見学者・マスコミ等に公開
平成１８年１２月　１日　　栽培実験指針に基づく交雑に関するモニタリングの結果、交雑がなかったことについてプレスリリースにて公表